

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：32661

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23593145

研究課題名(和文) 大学院におけるOSCEを用いた専門看護師の看護実践能力評価プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of nursing practice ability evaluation program certified nurse specialist with OSCE in graduate school

研究代表者

澗本 雅昭 (FUCHIMOTO, Masaaki)

東邦大学・看護学部・非常勤研究生

研究者番号：00452996

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：大学院におけるOSCEを用いた急性・重症患者看護専門看護師(以下、CNS)の看護実践能力評価プログラムの開発を目的に、現在わが国のCNS教育課程を持つ看護系大学院における看護技術教育の調査と、CNSが考える高度看護実践とは何かを明らかにすべくグループフォーカスインタビューを行った。その結果、大学院における看護技術教育の内容や評価は大学院によって異なっていた。また、CNSが考える高度看護実践能力は27のサブカテゴリーと、9つのカテゴリーが抽出された。今後は、抽出されたカテゴリーの妥当性を再確認しながら、高度な看護実践能力を客観的に評価可能なプログラムの開発を検討して行きたい。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was development of ability for nursing practice evaluation program of Critical care CNS using the OSCE in the graduate school. At first investigated the nursing technical education in the nursing system graduate school with CNS curriculum. Next, performed a group focus interview in order to clarify something with the nursing practice of the CNS. As a result, the contents and the evaluation of nursing technical education in the graduate school varied according to there. In future, want to examine development of the program that is evaluable with nursing practice ability objectively while reconfirming the validity of an extracted category.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：急性・重症患者看護専門看護師 看護実践能力 OSCE

1. 研究開始当初の背景

日本看護協会が定める専門看護師（以下、CNS）は、実践：個人・家族または集団への卓越した看護実践、相談：看護職種等へのコンサルテーション、教育：看護職者に対する専門分野の教育的機能、調整：保健医療福祉チームへのコーディネート、研究：専門的知識・技術の向上および開発をはかるための実践の場における研究活動、倫理調整：個人・家族または集団の権利を守るための倫理的問題や葛藤の解決という6つの役割を担っている。つまりCNSは、極めて困難で複雑な健康問題を抱えた人、家族、地域等に対してより質の高い看護を提供するための知識や技術を備えた特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有する看護師である。しかし、これまでのCNS教育課程で行われている実習は、期間に限りがあることや他施設での実習における実習生の責任の所在が壁となり、臨地実習で経験できる看護技術の範囲や機会が限定される現状では、統合した実践能力の獲得には限界があると考えられる。また、急性・重症患者看護CNSの専門性とは何か、高度な実践力とは何かを示す先行文献は見当たらない。

そこで、大学院生がこれまでの看護経験と大学院CNS教育課程での演習や実習で習得した看護実践能力を総合的に評価するために、医学・医療系の教育で臨床技能の適正評価に有効であるとされているOSCEを用いた看護実践能力評価プログラムの開発が必要と考えた。OSCEは、Hardenらが1975年に紹介したのを契機に、現在では医学部基礎教育に導入されているが、看護基礎教育では、基礎看護領域や救急看護場面での実施報告、看護技術試験に模擬患者（SP）を活用した報告が散見されるが、現時点では研究報告はまだ少なく、看護基礎教育においても試行錯誤の段階にあると言える。また、日本における大学院CNS教育課程でOSCEを導入している大学院は皆無である。

2. 研究の目的

大学院専門看護師教育課程において高度な看護実践能力の総合的な評価に向け、本研究はクリティカルケア看護領域で必要とする看護技術の中から、急性・重症患者看護専門看護師教育課程で教育・評価すべき看護技術を抽出・選定し、それらの到達度を明確にした客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination；以下、OSCEとする）による急性・重症患者看護専門看護師実践能力評価プログラムを開発するための基盤作りを目的とする。

3. 研究の方法

研究は、看護系大学院教育においてOSCEを用いた評価プログラムを開発してゆく介入型である。本研究は、全国看護系大学院CNSコースのカリキュラムや、救急看護学やクリテ

ィカルケア看護学書籍で提示されている看護技術項目を参考に、CNSの到達課題や役割と照合しながら、急性・重症患者看護CNS教育課程で教育・評価することが望ましい看護技術項目を抽出・選定し、大学院CNSコース生のOSCE看護実践課題を作成する基礎データを集積する。

(1) 大学院教育における看護技術

【対象】国内における急性・重症患者看護専門看護師教育課程を持つ看護系大学院で、webならびにパンフレットなどで公開されているシラバスを対象とした。

【方法】データ収集は、webならびにパンフレットなどで公開されているシラバスより「看護技術」に着目したキーワードを選出した。CNSとして明記されている6つの役割、「看護実践」以外の「相談（コンサルテーション）」、「倫理調整」、「調整」、「教育」、「研究」に関するキーワードは除外した。

(2) 高度な看護実践とは何か

【対象】対象者は、日本看護協会に急性・重症患者看護専門看護師として登録している、現在、臨床で活動している、専門看護師として2年以上経験しており、便宜的に抽出し、研究目的に同意を得られた専門看護師を研究対象者とした。

【方法】データ収集は、グループフォーカスインタビューを実施した。テーマは、インタビューガイドに沿って養成課程の概要、養成課程における臨床実践能力の評価、高度な看護実践を行うために必要な臨床実践能力とした。インタビュー内容は研究協力者の同意を得てICレコーダーに録音した。

【分析方法】録音したインタビュー内容を逐語録にし、文字データとした。養成課程の概要、養成課程における臨床実践能力の評価は、類似する内容毎にまとめた。高度な看護実践を行うために必要な臨床実践能力は質的に分析をした。「急性・重症患者看護専門看護師の高度な看護実践を行うために必要な看護実践能力」に焦点化し、文脈単位で抽出した。それぞれの文脈単位の意味内容を検討し、コード名を付した。コード内容の類似性を共通性に基づき分類し、サブカテゴリー、カテゴリーを形成した。

【倫理的配慮】A 大学倫理委員会において承認を得た。研究対象者には文書にて、研究主旨、研究協力の有無や中断に関する自由、匿名性の保護、個人情報管理に十分留意すること等を説明した。グループフォーカスインタビュー実施後には、再度、口頭で説明し同意書に署名を得た。

4. 研究成果

(1) 大学院教育における看護技術

対象は公開されていた11の大学院とした。その結果、キーワードとして13の看護技術が選定された。「フィジカルイグザミネーショ

ン/ヘルスアセスメント」11件、「家族ケア/家族支援技術」11件、「危機介入」11件、「呼吸管理,人工呼吸器管理」9件、「補助循環(大動脈バルーンポンピング,経皮的人工心肺),補助循環管理中のケア」7件、「ペインコントロール」7件、「救命救急処置/技術(一次救命処置,二次救命処置法)」5件、「代替療法,補完療法」5件、「創傷処置,創傷ケア」4件、「ME 機器管理」3件、「麻酔管理,全身麻酔時のケア」3件、「トリアージ」,「せん妄予防ケア」,「透析ケア」各1件であった。

大学院教育で教授されている看護技術の現状を把握する目的に,国内における急性・重症患者看護専門看護師教育課程を持つ看護系大学院で公開されているシラバスから看護技術を選出した。その結果,看護技術はそれぞれの大学院によって異なっていた。授業科目も講義,演習とそれぞれであり,事例展開やグループワークなどが行われていた。評価方法もほとんどが授業態度,課題の提出によって行われており,OSCE などによる評価は皆無であった。シラバスからの調査には限界があり,今後はヒヤリングを含めて具体的にどのように看護技術教育がなされているかを調査して行きたい。

(2)高度な看護実践とは何か

対象者は対象条件に沿った急性・重症患者看護専門看護師5名(CNS 経験年数は平均4.0年,看護師経験年数は平均16.6年)であった。[養成課程の概要]大学院修士課程に設置されている CNS コースを修了していた。取得単位は26~38単位で,実習単位数は6単位であった。授業は講義・演習・実習の形態であり,授業担当はほぼ看護教員であった。高度な看護実践の基盤となる「形態機能学」,「臨床薬理学」,「疾病治療学」,「フィジカルアセスメント/ヘルスアセスメント」は,大学院によって異なり,選択授業である場合が多かった。

[成課程における臨床実践能力の評価]授業態度や課題への取り組み方などの態度評価,実習の評価もケースレポートの提出による評価が主であり,看護技術やOSCE など実践力の評価には至っていなかった。

[高度な看護実践を行うために必要な臨床実践能力]本調査において CNS が高度な看護実践を行うために必要な臨床実践能力は,110コード,27のサブカテゴリー,9カテゴリーが抽出された。「聴診器一つ巧みに使いこなせる力」,「迅速な判断力」から『的確なフォジカルイグザミネーションと迅速にアセスメントする力』,「複雑で困難な状況や問題に介入し解決できる実践力」,「限られた時間で判断しなければならない問題解決能力」から『クリティカルな状況における複雑で困難な状況や問題を解決する力』,「広い視野で先を読む力」,「先を見据えられる想像する力」などから『可視化できる評価や予測される事柄に幅広い知見を持つ

て推論できる力』,「理論やエビデンスを活用し論理的思考に基づいた実践力」,「看護実践を振り返り検証していく力」などから『理論やエビデンスを活用し論理的に考え看護実践をモデル化する力』,「倫理的問題を見だし解決する力」,「意思決定を支援する力」などから『倫理的な現象に対する問題解決や意思決定を支える力』,「効果的な看護実践をするための看護提供システムの改善や構築する力」,「組織や,チームスタッフに影響を与えられる力」から『看護提供システムの改善や構築する力』,「組織や多職種と協働できる力」,「専門家やリソースパーソンを活用できる力」などから『問題解決に向けて多職種や専門家などのリソースを活用できる力』,「看護実践を通して教育視点でチームを育もうとする力」,「スタッフの看護実践を支援する実践力」などから『クリティカルな状況下においてチームを牽引するリーダーシップ力』,「組織や多職種との協働関係作りの調整力と交渉力」,「対人関係・コミュニケーション力」から『調整力・交渉力・コミュニケーション力』が抽出された(表1:急性・重症患者看護専門看護師が高度な看護実践を行うために必要な能力のカテゴリー)。

CNS が考える高度看護実践とは何かを抽出することを目的に,グループフォーカスインタビューを行った。養成課程の教育内容や実践能力評価は履修した大学院の教育や看護教員に委ねられている。高度な看護実践を行うために必要な能力は,論理的思考や実践評価の可視化などが挙げられた。また,問題解決に向けてチームの調整力,交渉力といったカテゴリーも抽出され急性期医療における多職種協働を行っていくことも高度な看護実践の1つとして抽出された。

表 1

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
1. 知識・技能	1.1 基礎知識・技能	101-105
	1.2 専門知識・技能	106-110
	1.3 応用知識・技能	111-115
2. 態度・能力	2.1 倫理・法律	201-205
	2.2 対人関係・コミュニケーション	206-210
	2.3 問題解決・批判的思考	211-215
3. 実践力	3.1 観察・評価	301-305
	3.2 介入・処置	306-310
	3.3 教育・指導	311-315

(3)大学院における急性・重症患者看護専門看護師の OSCE

大学院における急性・重症患者看護専門看護師の OSCE は,本研究で抽出された大学

院教育における看護技術をもとに,急性・重症患者看護専門看護師が高度な看護実践を行うために必要な9つの能力を組あせた評価指標が必要と考える.今後は,抽出されたカテゴリーの妥当性を再確認しながら,高度な看護実践能力を客観的に評価可能なプログラムの開発を検討して行きたい.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

淵本雅昭, 小児看護におけるシミュレーション教育, 小児看護, 査読なし, Vol135, No12, 2012, pp1664-1667.

〔学会発表〕(計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

淵本 雅昭 (FUCHIMOTO, Masaaki)
東邦大学・看護学部・非常勤研究生
研究者番号: 00452996

(2) 研究分担者

中村 恵子 (NAKAMURA, Keiko)
札幌市立大学・看護学部・教授
研究者番号: 70255412

内田 雅子 (UCHIDA, Masako)
札幌市立大学・看護学部・教授
研究者番号: 60326494

菅原 美樹 (SUGAWARA, Miki)
札幌市立大学・看護学部・准教授
研究者番号: 60452992